



# Presentation Material

## 2024年度 決算説明会資料

2025年5月29日

証券コード 5351

 品川リフラクトリーズ株式会社

## 耐火物・断熱材のトップメーカーとして…

売上規模

**1,440**億円  
(2024年度)

国内第**2**位      世界第**5**位

収益性

**ROE**  
(2024年度)

**11.3%**

海外展開力

海外関係会社  
(2025年3月31日現在)

**30**社  
(グループ38社)

海外従業員  
(2025年3月31日現在)

**1,252**名  
(グループ3,732名)

海外事業成長力

海外売上高5か年成長率  
(2020年度実績⇒2024年度実績)

**約2.7**倍

# 目次

## I. 2024年度の決算概要

1. 2024年度の決算ハイライト
2. 事業セグメント別の売上高
3. 事業セグメント別のEBITDA
4. 地域別の売上高
5. EBITDA・営業利益の増減要因

## II. 2025年度の見通し(第6次中期経営計画)

1. 「ビジョン2030」基本方針と設定目標
2. 第6次中期経営計画の重点方針と設定目標
3. 取り巻く事業環境と今後の見通し
4. 中期経営計画における成長戦略の全体像と主な進捗
5. 2025年度の業績見通し
6. 2025年度のEBITDA・営業利益 増減要因見通し
7. 2025年度のセクター別業績見通し
8. 2025年度 セクター別方針

## III. Reframax社の買収とグローバル展開の加速

1. 近年の海外展開状況
2. 本中計期間における主要なM&A2社の概要
3. Reframax社の事業展開
4. Reframax社の買収効果 ~ 4つの買収効果
5. グローバル展開の加速 ①海外売上高比率  
②地域別売上高構成比

## IV. キャッシュアロケーションと利益還元

1. キャッシュアロケーション 基本方針
2. 利益還元
3. 財務状態と主な経営指標(成長投資実施後の予想)

## V. その先の未来に向けて

1. 第6次中計目標の達成に向けて
2. おわりに: さらにその先の未来へ向けて…

## VI. 【ご参考】その他の戦略の進捗状況など

- 【ご参考】 Reframax社と当社グループのシナジー
- 【ご参考】 各セクターの取組みトピックス
- 【ご参考】 生産基盤の整備状況
- 【ご参考】 サステナビリティへの取組み

# I. 2024年度の決算概要

# 1. 2024年度の決算ハイライト

(単位:億円)

	2023年度	2024年度	前年同期比
	実績	実績	
売上高	1,441	1,440	△0.1%
EBITDA (EBITDAマージン)	176 (12.3%)	179 (12.5%)	+1.5% (+0.2pt)
営業利益 (営業利益率)	138 (9.6%)	132 (9.2%)	△4.4% (△0.4pt)
経常利益	149	136	△8.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	152	97	△36.0%

注1:本資料において、売上高や利益等の数値は億円単位で切り捨てている。利益率・構成比及び前年同期比については円単位で計算している。

注2:EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- 国内粗鋼生産量は、国内の製造業向けや建設向けの鉄鋼需要が低調であったことなどの要因により前期比4.5%減の8,295万トン。
- 耐火物セクターでは、国内粗鋼生産量が減少し、海外においてもお客様の活動水準が低下するなどにより耐火物販売数量が減少したが、オランダのGouda社の第4四半期業績が寄与したこと、また、断熱材・先端機材・エンジニアリングセクターの増収により、全体の売上高は横ばい。
- 耐火物セクターにおいて、販売構成の改善によるスプレッドの拡大、コストダウン等を進めたものの、国内外の需要環境の悪化による耐火物販売数量の減少や、のれん他償却額の増加もあり、営業利益以下の各段階利益は減益。但し、EBITDAは増益を確保。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期に対し当連結期間には大きな固定資産売却益がなかったことが減益要因となった。

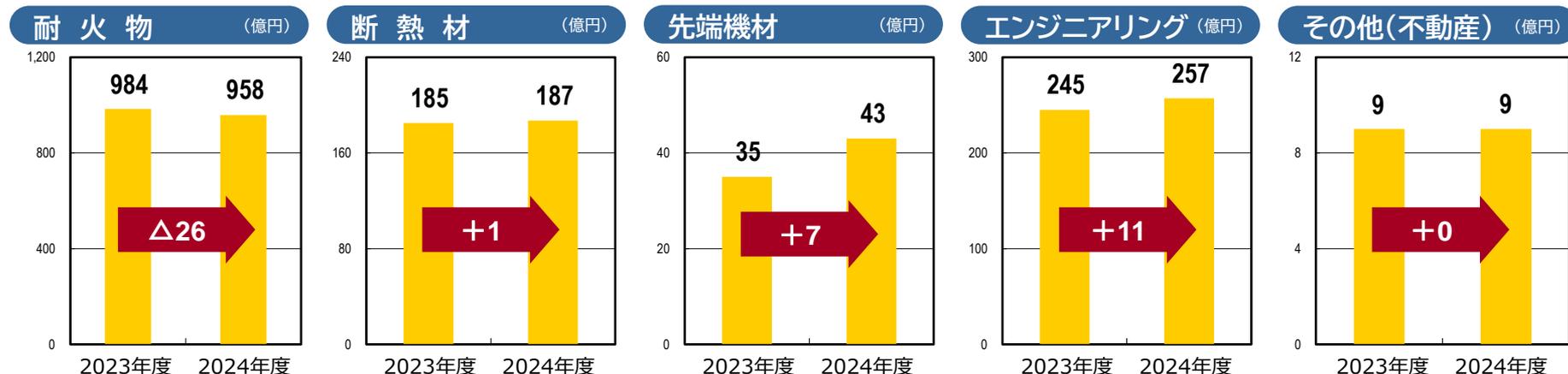
## 2. 事業セグメント別の売上高

(単位: 億円)

	2023年度	2024年度	前期比
	実績	実績	
耐火物セクター	984 [ 67.4 ]	958 [ 65.8 ]	△2.6%
断熱材セクター	185 [ 12.7 ]	187 [ 12.9 ]	+1.1%
先端機材セクター	35 [ 2.4 ]	43 [ 3.0 ]	+22.2%
エンジニアリングセクター	245 [ 16.8 ]	257 [ 17.7 ]	+4.8%
その他(不動産)	9 [ 0.6 ]	9 [ 0.6 ]	+0.4%
合計	1,460 [100.0]	1,456 [100.0]	△0.3%
調整額	△18	△15	—
売上高計	1,441	1,440	△0.1%

注1: [ ]内は、事業セグメント別の売上高構成比(%)

注2: 調整額は、セグメント間の内部売上高または振替高



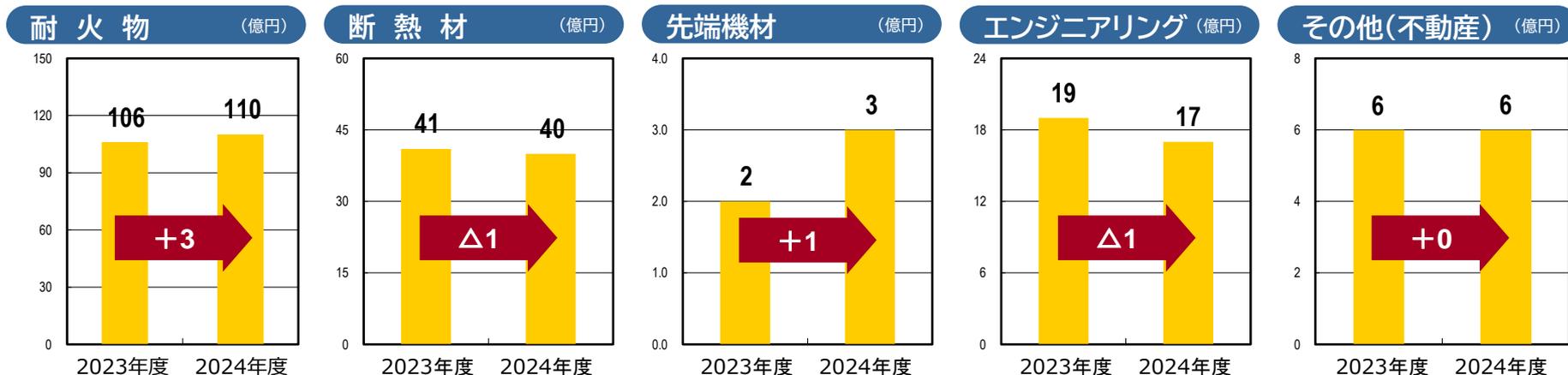
### 3. 事業セグメント別のEBITDA

(単位: 億円)

	2023年度	2024年度	前年同期比
	実績	実績	
耐火物セクター	106 [ 60.1 ]	110 [ 61.5 ]	+3.7%
断熱材セクター	41 [ 23.6 ]	40 [ 22.5 ]	△3.4%
先端機材セクター	2 [ 1.6 ]	3 [ 2.2 ]	+37.9%
エンジニアリングセクター	19 [ 10.9 ]	17 [ 10.0 ]	△6.6%
その他(不動産)	6 [ 3.7 ]	6 [ 3.7 ]	+1.3%
合計	176 [100.0]	179 [100.0]	+1.4%
調整額	+0	+0	—
EBITDA 計	176	179	+1.5%

注1: [ ]内は、事業セグメント別のEBITDA構成比(%)

注2: 調整額は、セグメント間取引に係る未実現利益消去等

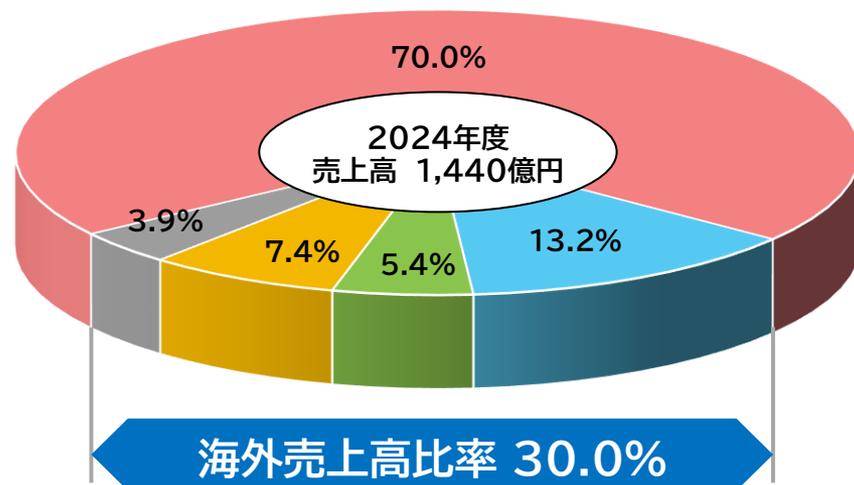
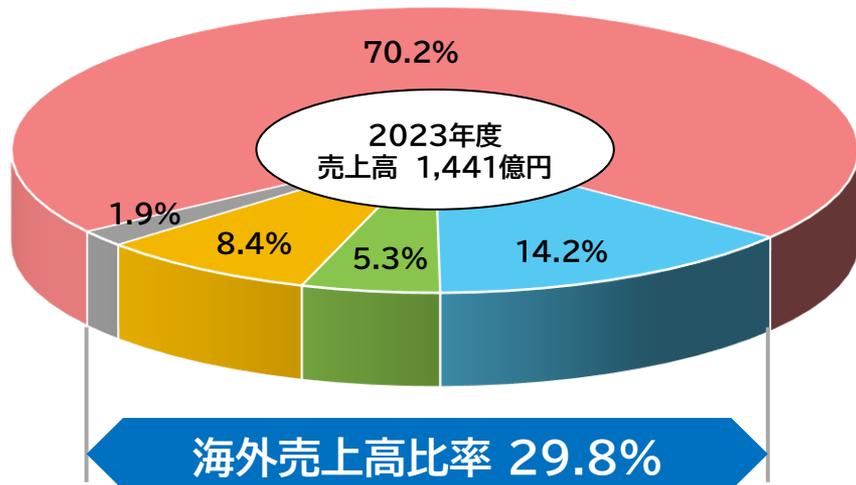


# 4. 地域別の売上高

(単位:億円)

	2023年度	2024年度	前期比
	実績	実績	
日本	1,012 [ 70.2 ]	1,009 [ 70.0 ]	△0.3%
アジア・オセアニア	205 [ 14.2 ]	190 [ 13.2 ]	△7.1%
北米	76 [ 5.3 ]	77 [ 5.4 ]	+1.9%
南米	120 [ 8.4 ]	106 [ 7.4 ]	△11.6%
その他海外	27 [ 1.9 ]	56 [ 3.9 ]	+106.0%
合計	1,441 [100.0]	1,440 [100.0]	△0.1%

注: [ ]内は、地域別の売上高構成比(%)



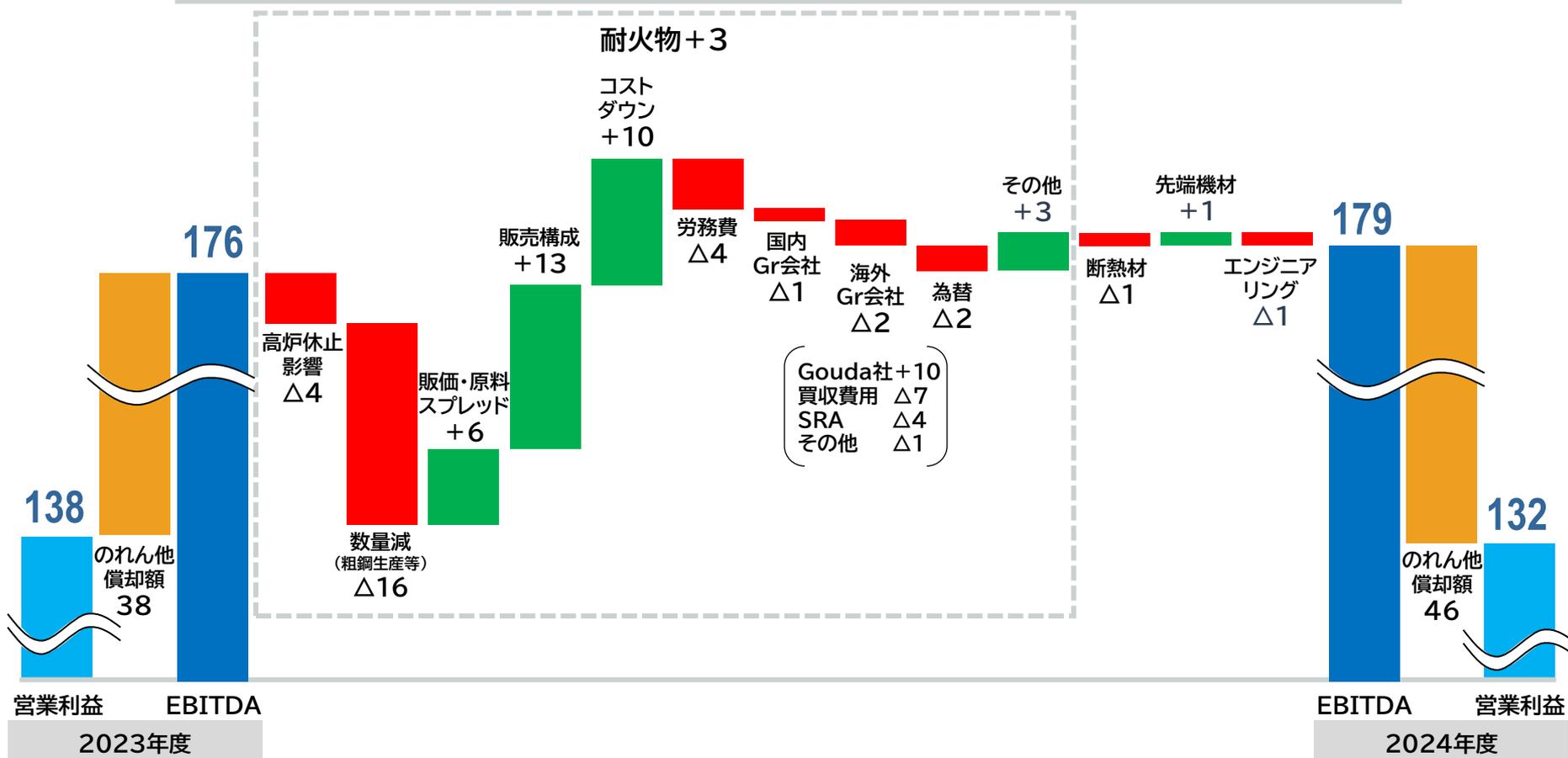
# 5. EBITDA・営業利益の増減要因

(単位: 億円)

【営業利益】 減少額△6 (138 ⇒ 132)

【EBITDA】 増加額+2\* (176 ⇒ 179)

\* 増益要因+33  
減益要因△31



## Ⅱ. 2025年度の見通し(第6次中期経営計画)

# 1. 「ビジョン2030」基本方針と設定目標

## 【ビジョン2030 基本方針】

事業成長と社会課題解決を表裏一体として追求

【目指す姿 = 当社グループのあるべき姿】

グローバル × 成長分野への進出 × サステナビリティ

～日本だけ、耐火物だけ、鉄鋼だけではない、品川グループへ～

### 【成長軸】 財務目標

	2024年度 実績	2030年度 目標
売上高	1,440億円	2,400億円
EBITDA マージン	12.5%	16%
ROIC	7.2%	10%
海外売上高比率	30.0%	50%

・事業投資、設備投資を積極的に図りつつ利益率を高めROIC10%を確保する

### 【サステナビリティ軸】 サステナビリティ目標

#### ■ 気候変動対応関連KPI

CO<sub>2</sub>排出量(連結ベース、Scope1,2)

2022年度 138千t<sup>※1</sup> ▶ 2030年度目標 50%へ

グリーン原料<sup>※2</sup>の使用比率(単体ベース)

2023年度10% ▶ 2030年度目標 20%へ

※1: 第三者保証は2024年9月に認証済

※2: グリーン原料は、使用後耐火物リサイクル原料、社内発生リサイクル原料、他産業の副産物等の合計

#### ■ 人的資本戦略関連

- ① 経営戦略に即した人材・組織開発
- ② ダイバーシティ&インクルージョンの確立
- ③ 働きやすい職場環境の創造

## 2. 第6次中期経営計画の重点方針と設定目標

# 第6次中期経営計画

2024年度～2026年度

### 重点方針

セクター戦略の深化

生産基盤の整備

グローバル展開の加速

サステナビリティ経営の推進

### 【成長軸】 財務目標

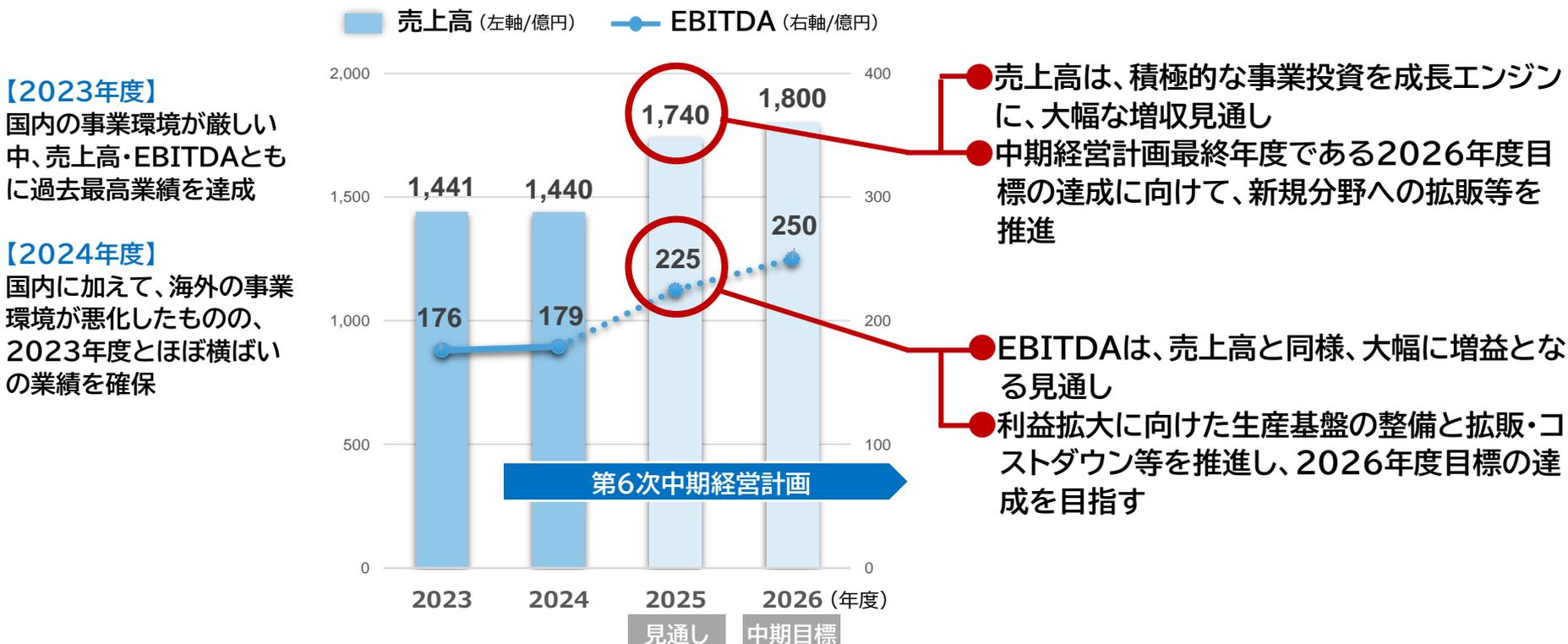
	2024年度 実績	2026年度 目標
売上高	1,440億円	1,800億円
EBITDA マージン	12.5%	14%
ROIC	7.2%	10%
海外売上高比率	30.0%	45%

#### 【2026年度の目標値について】

2024年度以降、主要取引先の高炉休止等の影響が一定の業績低下要因となるものの、海外ビジネスをはじめとした事業拡大と、コストダウン等の取組みにより、売上・利益ともに拡大していく計画。

### 3. 取り巻く事業環境と今後の見通し

当社セクター	主要市場	事業環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>●耐火物</li> <li>●エンジニアリング</li> </ul>	鉄鋼	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の鉄鋼需要の先行きは不透明</li> <li>・米国の通商政策動向等の変動リスクあり</li> <li>・海外のお客様の活動水準も低位継続の見通し</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●断熱材</li> <li>●先端機材</li> </ul>	半導体製造装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期にかけては、需要拡大が見込まれる</li> <li>・足元の需要は、顧客在庫調整等により足踏み</li> </ul>



# 4. 中期経営計画における成長戦略の全体像と主な進捗

オーガニックな成長+M&A等の複合的な展開により、  
トップラインの拡大を加速

拡大する当社グループのグローバルネットワークを駆使  
した拡販を促進

M&Aは、今後も成長戦略のカギを握り  
海外を中心に新たな案件を模索

## 【オーガニックな成長】

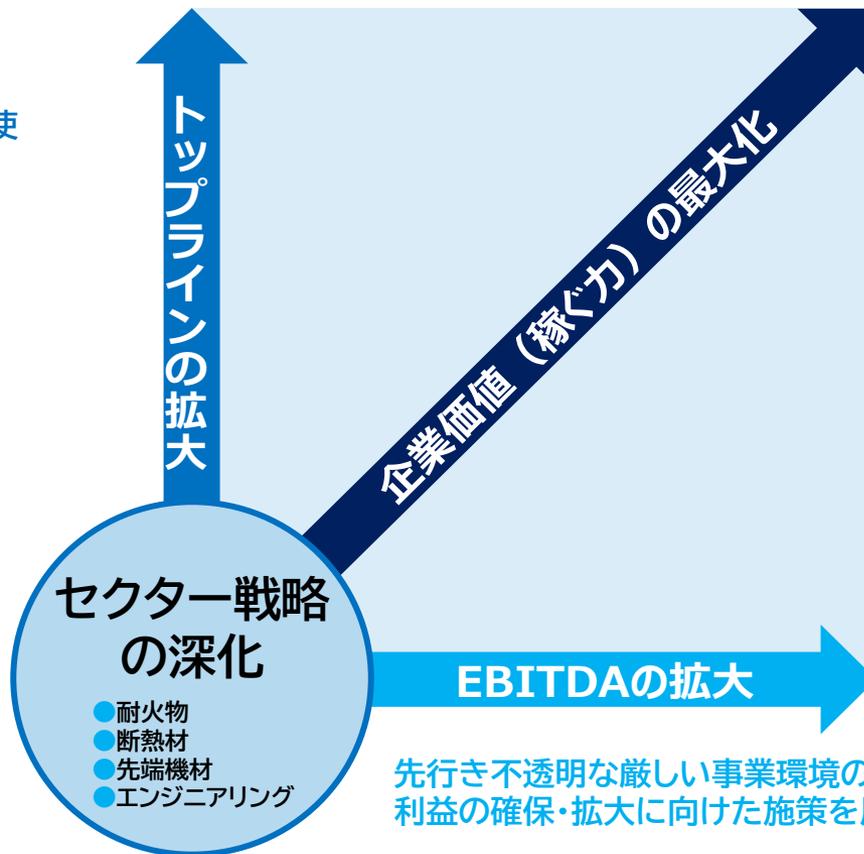
- 耐火物セクターにおける国内・未浸透分野の開拓
  - ： 非鉄・工業炉分野でのより一層のシェア拡大を図るため、  
2025年4月に営業・開発部門の組織を再編
- 断熱材・先端機材セクターにおける新規分野の開拓加速

## 【M&A等】

- 海外におけるM&Aの推進
  - ： Gouda社買収（2024年10月）
  - ： Reframax社買収（2025年Q1を予定）

## 【M&Aシナジー】

- セクターを超えたシナジーの発現
  - ： M&Aで獲得した買収事業と既存事業のコラボレーション



先行き不透明な厳しい事業環境の中、着実に  
利益の確保・拡大に向けた施策を展開

- 生産プロセスにおけるコストダウンの徹底
- グローバルサプライチェーンを通じた使用  
後製品を含む安価原料の調達
- 適正価格の設定および販売構成の改善  
によるスプレッドの維持・拡大

など

# 5. 2025年度の業績見通し

(単位:億円)

	2024年度 実績			2025年度 予想			増減比 (通期ベース)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	
売上高	682	758	1,440	810	930	1,740	+20.8%
EBITDA (EBITDAマージン)	81 (12.1%)	97 (12.9%)	179 (12.5%)	95 (11.7%)	130 (14.0%)	225 (12.9%)	+25.3% (+0.4pt)
営業利益 (営業利益率)	63 (9.3%)	69 (9.2%)	132 (9.2%)	50 (6.2%)	85 (9.1%)	135 (7.8%)	+1.7% (△1.4pt)
経常利益	66	69	136	50	85	135	△1.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	49	48	97	30	50	80	△18.2%

注: 下期数値=通期-上期で換算

上期・下期の差

1

- ・Reframax社+60
- ・耐火物+36 (うち、Gouda社+14)
- ・断熱材+18
- ・エンジニアリング+6

2

- ・Reframax社+12
- ・耐火物+10 (うち、Gouda社+6)
- ・断熱材+6
- ・エンジニアリング+7

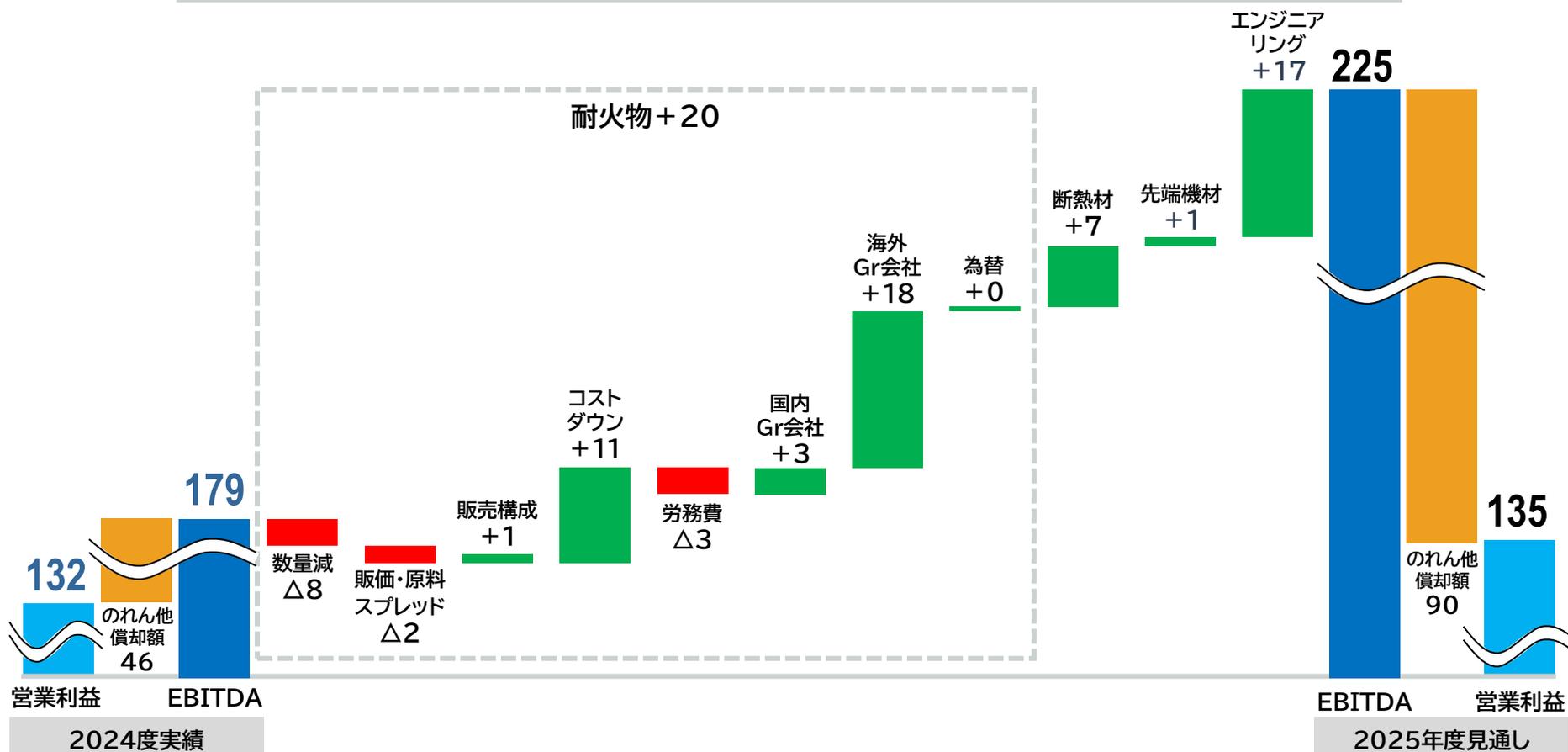
- 2026年3月期の前提国内粗鋼生産量は減少の見込み。但し、確度の高い見通しは困難であり、変動リスクを伴う状況。
- 厳しい事業環境が継続することが予想されるが、Gouda社およびReframax社の業績が寄与することにより、大幅な増収見込み。さらに、グローバルネットワークを活用した拡販活動の推進および生産プロセスにおけるコストダウンの徹底、安価原料の調達等により、EBITDAは増益を図る。
- 上述の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、80億円の見込み。
- 上期に対し、下期はReframax社の業績がフルに寄与すること、Gouda社の増収・増益、耐火物・断熱材・エンジニアリングセクターの拡販効果等により、全体で増収・増益見込み。

# 6. 2025年度のEBITDA・営業利益 増減要因見通し

(単位: 億円)

**【営業利益】 増加額+2 (132 ⇒ 135)**

**【EBITDA】 増加額+45\* (179 ⇒ 225) \* 増益要因+58  
減益要因△13**



# 7. 2025年度のセクター別業績見通し

		第6次中期経営計画		
(単位:億円)		2024年度 実績	2025年度 見通し	2026年度 目標
<b>セクター別 売上高</b> 2025年度は、国内粗鋼生産量の見通しは困難であり「耐火物セクター」と「エンジニアリングセクター」は変動リスクを伴う状況であるが、買収2社の業績が寄与することにより、大幅な増収見込み。「断熱材セクター」と「先端機材セクター」も新規分野への拡販等により、増収見込み	耐火物セクター	958	1,071	1,034
	断熱材セクター	187	201	220
	先端機材セクター	43	44	54
	エンジニアリングセクター	257	433	449
<b>セクター別 EBITDA</b> 2025年度は、上述の増収要因に加えて、グローバルネットワークを活用した拡販や業容拡大、コストダウン、安価原料の調達等により、全セクターにおいて、増益見込み	耐火物セクター	110	127	143
	断熱材セクター	40	47	51
	先端機材セクター	3	5	8
	エンジニアリングセクター	17	35	42
<b>セクター別 営業利益</b> 2025年度は、「耐火物セクター」において、のれん他償却額の増加があり、減益見込み。「断熱材セクター」、「先端機材セクター」、「エンジニアリングセクター」は増益見込み	耐火物セクター	76	73	113
	断熱材セクター	32	38	42
	先端機材セクター	1	2	4
	エンジニアリングセクター	16	18	37

注1：当社グループの連結業績は、表中のセクター別業績に「不動産」・「連結消去等」が加わります

注2：2024年5月に公表のビジョン2030及び第6次中期経営計画では、2026年度・連結業績目標には「実現性の高いM&A等案件」の業績を反映していたが、一方、「セクター別業績」には織り込んでいなかった。今回の「セクター別業績」2026年度目標には、当時想定していたエンジニアリングセクターにおけるM&A案件（Reframax社）の業績を織り込んでいる

## 8. 2025年度 セクター別方針

### 耐火物セクター

- 国内粗鋼生産量の漸減下での非鉄鋼業界への販売拡大による国内事業規模の維持
- 海外事業の拡大による海外売上高比率40%の達成
- セクター内所属各社の、ビジネス・BCP両面でのシナジー発揮(調達、生産、販売)

### 断熱材セクター

- コア事業の持続的成長と、成長分野（半導体関連、蓄電池他）への拡販推進
- 海外での高付加価値成形品の生産販売
- Gouda・SRP・SRB・Reframaxとの連携によるグローバルな新規市場開拓とシナジーの創出

### 先端機材セクター

- 新工場稼働による生産基盤の再構築と生産能力拡大
- 成長分野への製品開発の推進と半導体製造装置分野やエネルギー分野等への販売活動の強化
- ISO9001の導入による製品やサービスの品質向上

### エンジニアリングセクター

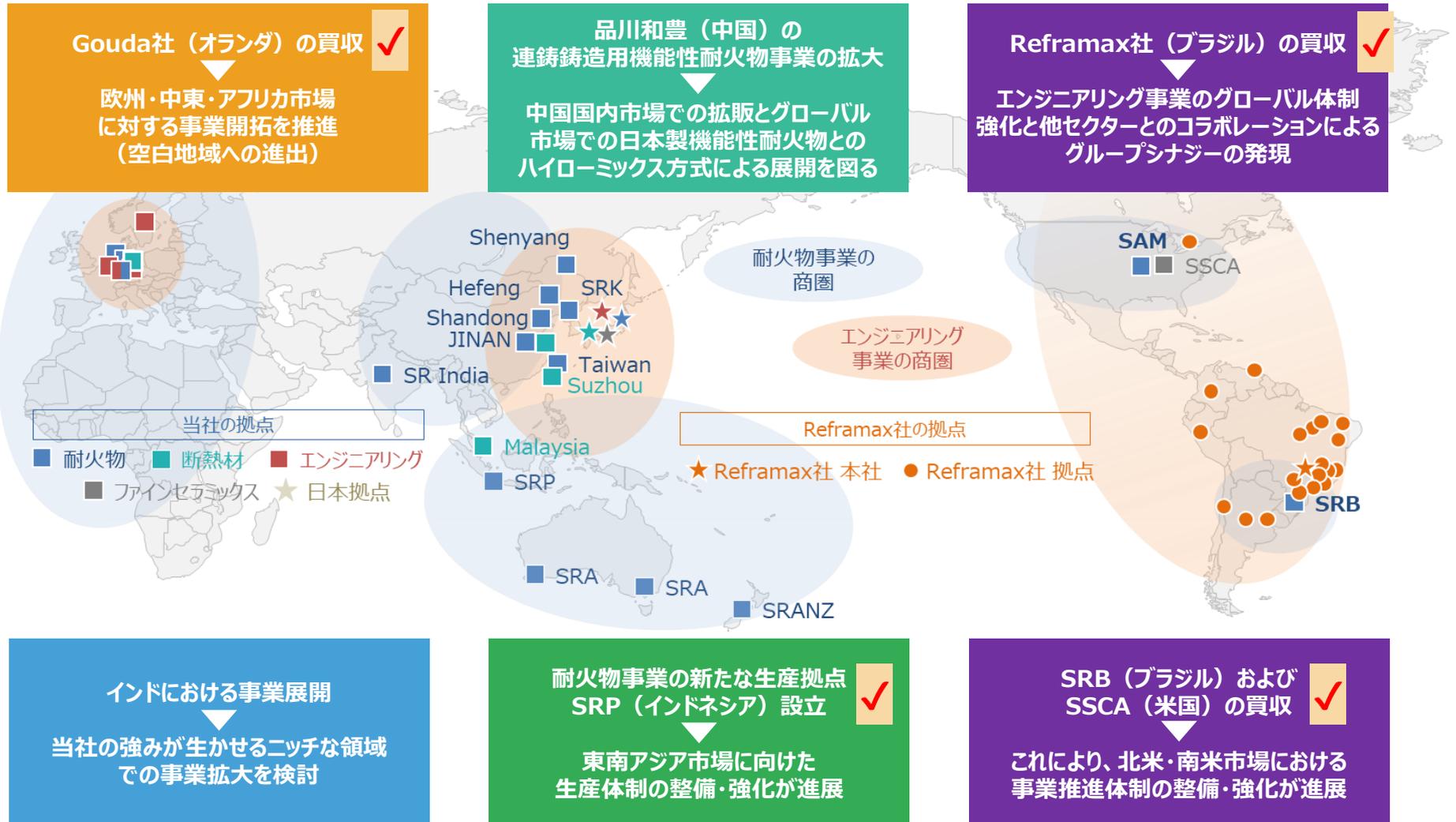
- 工事対応力の強化（新技術の開発、工事体制の見直し、M&Aの推進）
- 成長が見込まれる工業炉分野（非鉄、各種窯炉）への積極参入
- Reframaxとの協業によるシナジー発揮

## Ⅲ. Reframax<sup>※</sup>社の買収と グローバル展開の加速

※ : 「Reframax Engenharia Ltda.」。以降すべて「Reframax社」と表記

# 1. 近年の海外展開状況

## M&Aを中心とした積極的な事業投資により、海外事業展開を加速



## 2. 本中計期間における主要なM&A 2社の概要

### ■ Gouda社 (2024年10月買収)



本社	オランダ ゴーダ
設立	1983年
従業員数	237人
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 耐火物生産・販売及びエンジニアリング</li> <li>▶ 石油化学、非鉄金属、ごみ焼却炉発電を中心に事業を展開</li> <li>▶ 生産拠点はオランダ国内2か所、エンジニアリング拠点はオランダの他ドイツ・ベルギー・スウェーデンに所在</li> </ul>
業績	2024年実績 売上金額:157億円、 営業利益:19億円(12%)

### ■ Reframax社 (2025年Q1買収予定)



本社	ブラジル ミナスジェライス州 ベロオリゾンテ
設立	1999年
従業員数	約4,500人
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 耐火物工事、断熱工事を中心にエンジニアリング事業を展開</li> <li>▶ 2015年以降にサービス範囲を拡大し、足場工事、工業塗装、鋼構造物の総合修理、土木工事のメンテナンス、耐火被覆工事等の事業を開始</li> </ul>
業績	2024年実績 売上金額:235億円、 営業利益:26億円(11%)

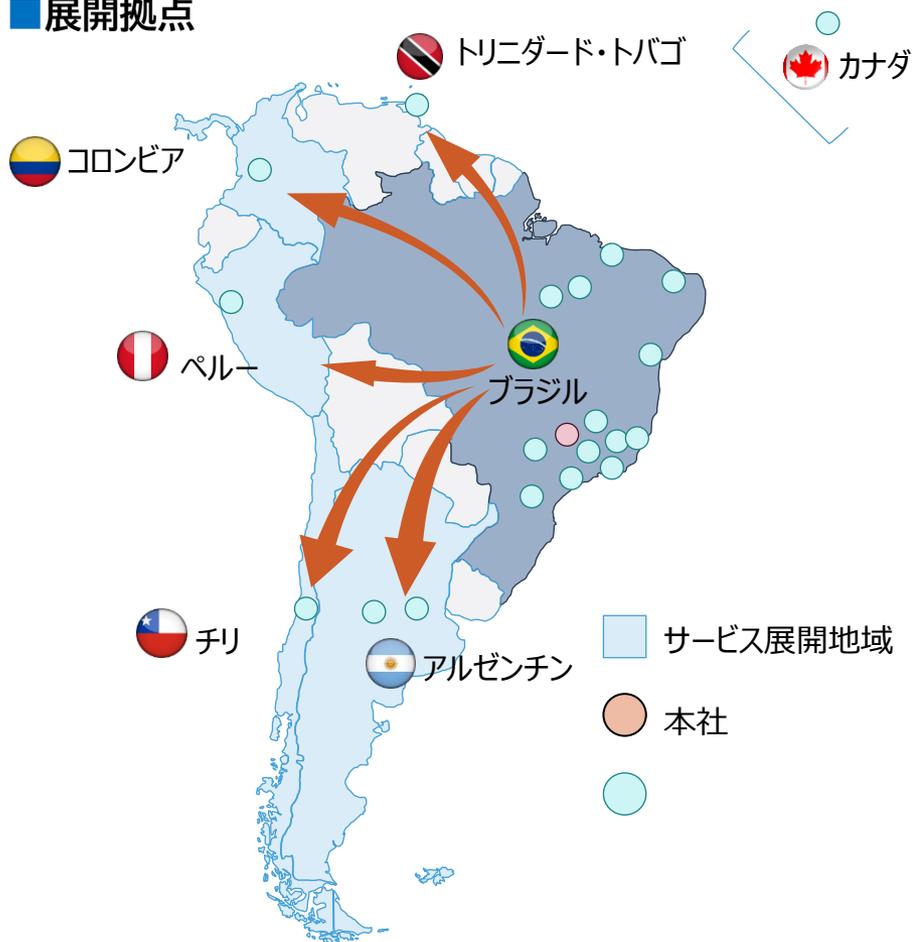


P22-23「Reframax社の買収効果」など 参照

### 3. Reframax社の事業展開

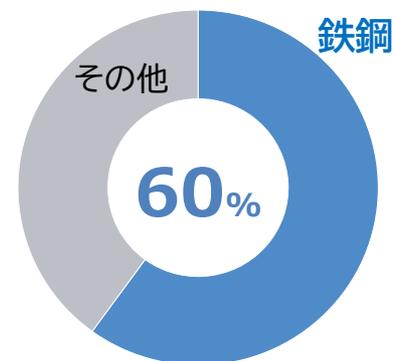
ブラジルを中心に、南米等の7カ国21拠点で事業を展開  
 様々な分野の顧客へ、耐火物施工に加えて、幅広いサービスを提供

#### ■ 展開拠点

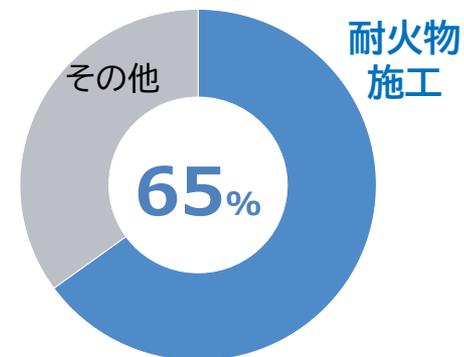


#### ■ 売上高構成比

鉄鋼業界向け  
 売上高割合(※1)



耐火物施工の  
 売上高割合(※2)



※1: その他分野には、鋳業、化学・石油化学、ニッケル、パルプ・製紙、エネルギー・バイオマス、アルミ、セメント、耐火物が含まれる

※2: その他セグメントには、電気機械、足場、塗装、断熱、海外、小規模案件が含まれる  
 出所: Reframax社HPおよび開示資料

## 4. Reframax社の買収効果 ～ 4つの買収効果

グローバルビジネスの拡大に加え、  
国内外での新たな事業展開やグループシナジー等への効果波及へ

### 買収効果 ①

#### グローバルビジネス の拡大

- 中長期的に安定した需要が見込まれる米州大陸でのプレゼンス強化
- 国内・鉄鋼分野に限定されない成長機会の取込み

### 買収効果 ②

#### 海外での展開市場 の拡大

- 鉄鋼・鋳業を中心に、非鉄金属、化学、石油化学へも顧客層を拡大
- 耐火物を中心に、電気機械、土木、塗装、断熱等の付随業務へサービス拡大

### 買収効果 ③

#### 当社グループとの シナジー

- Reframax社は米州地域で耐火物施工を中心にエンジニアリング事業を展開
- 高い技術力を有し当社グループとの多面的なシナジーが見込まれる

### 買収効果 ④

#### エンジニアリング事業 の強化

- グループ全体での人材交流・技術交流を通じたエンジニアリング事業の強化
- 2024年のGouda社買収に加えて、グローバルでの施工体制構築に寄与

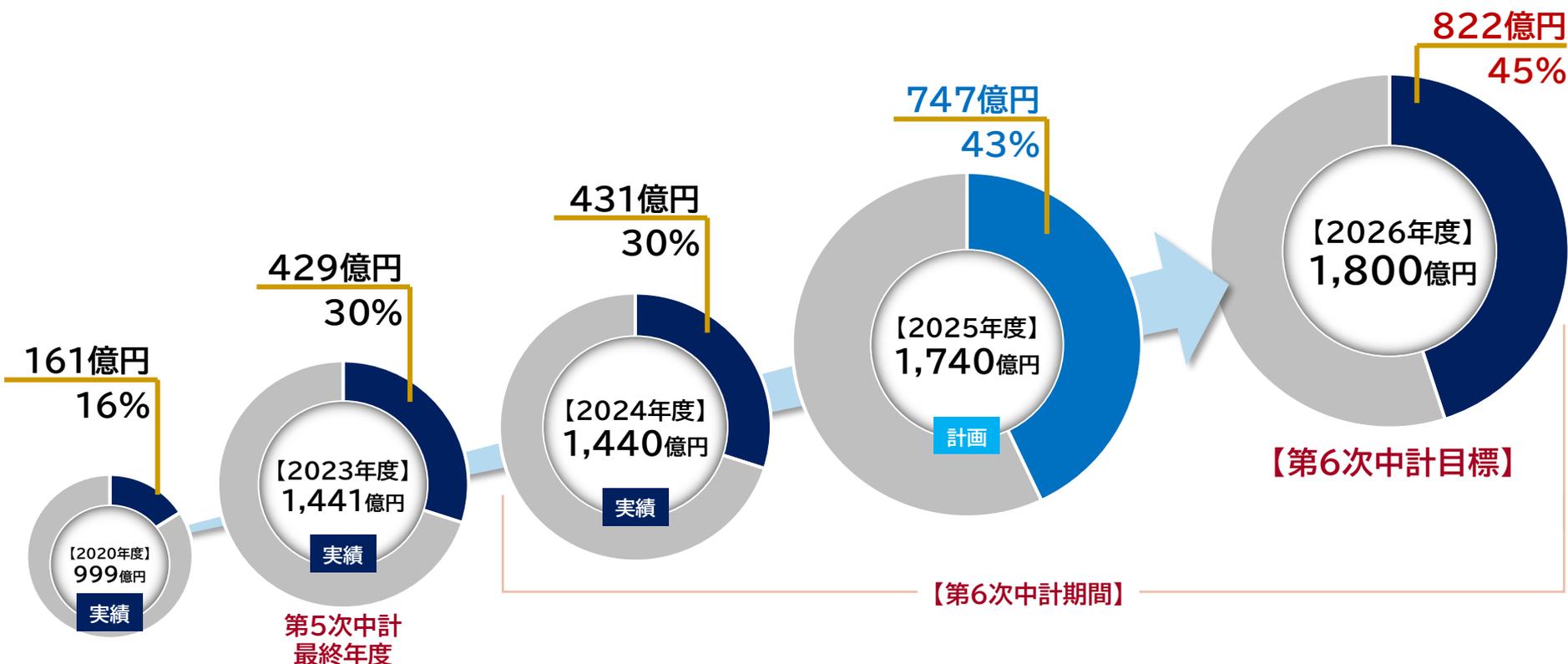
## 5. グローバル展開の加速 ①海外売上高比率

第5次中計で急速に成長した海外ビジネスの更なる拡大に向けて、第6次中計期間は、「現地製造・現地販売」の体制強化をさらに推し進め、2026年度には海外売上高**822億円**、海外売上高比率**45%**を目指す



M&A 2社

Gouda社に続きReframax社がグループに加わることで2025年度には、海外売上高比率が43%になる見通し

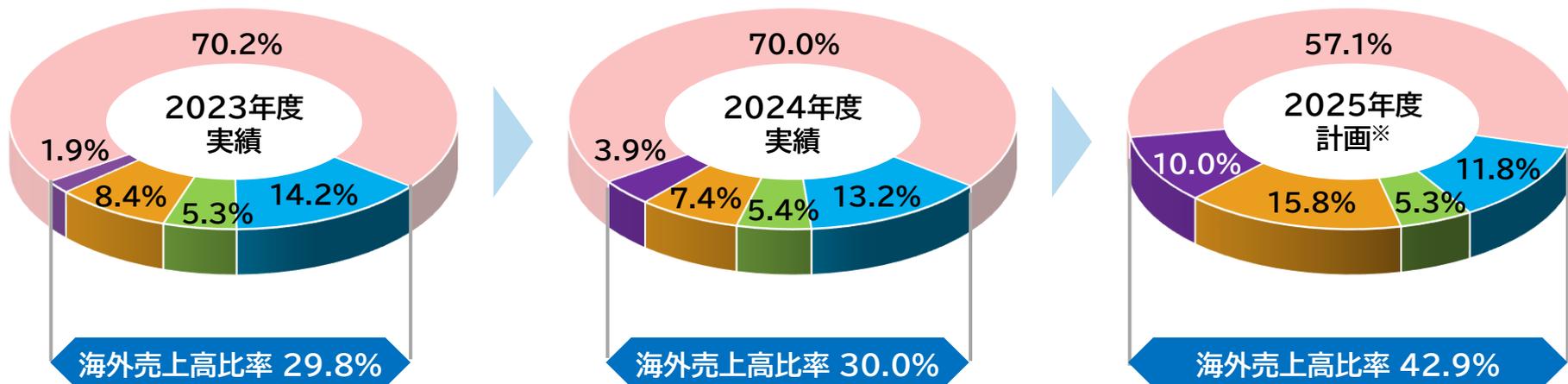


## 5. グローバル展開の加速 ②地域別売上高構成比

海外事業展開の加速に伴って、海外売上高比率の拡大に加え、地域別売上高構成のバランスも変化

### 【今後の戦略】

- 空白地域であった欧州・中東・アフリカ市場への浸透強化
- さらに、強固となったグローバルネットワークによる拡販

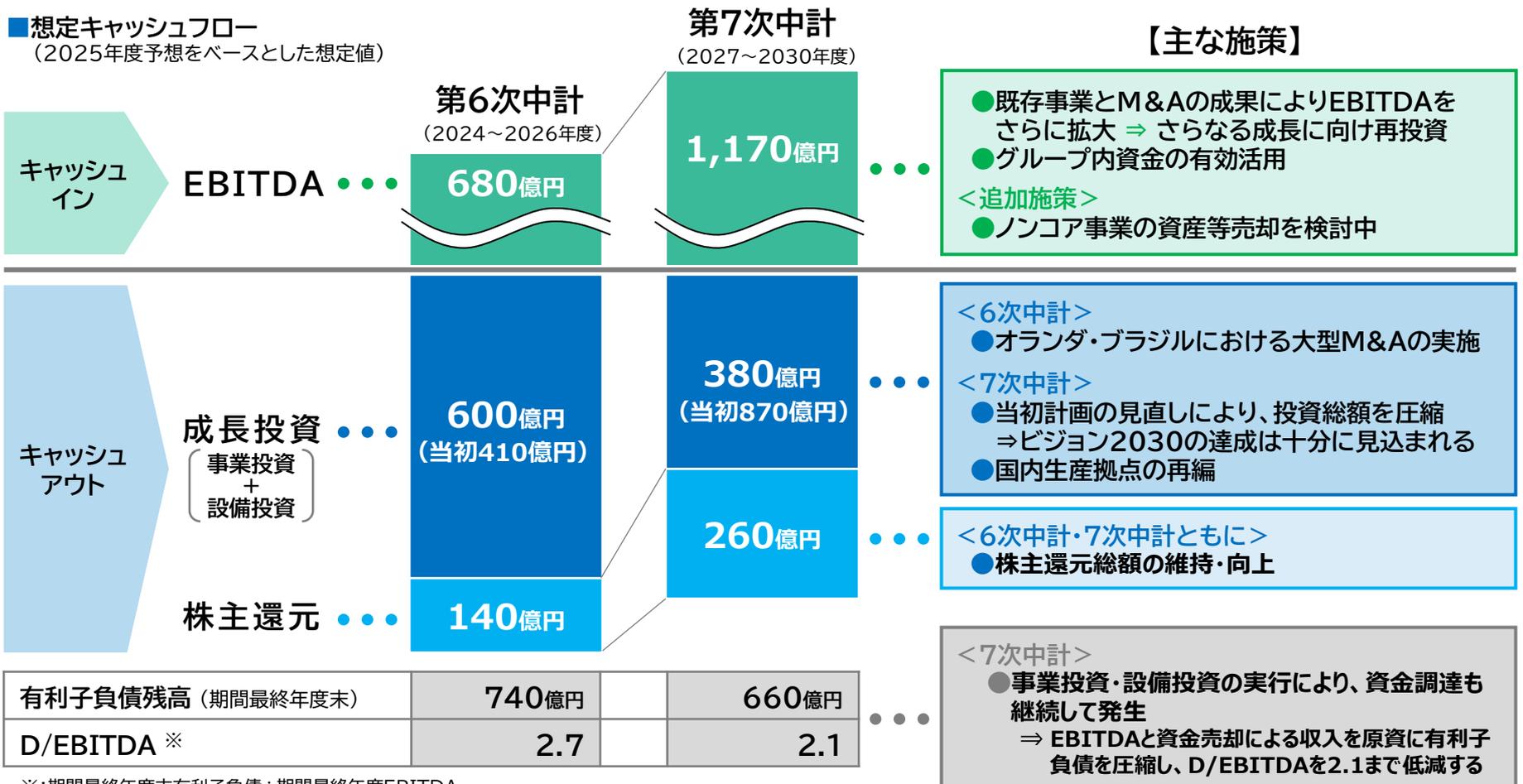


※: 2025年度計画には、Gouda社年間分およびReframax社9か月分の売上高を含む

## IV. キャッシュアロケーションと利益還元

# 1. キャッシュアロケーション 基本方針

財務基盤の健全性を確保しながら、  
積極的な成長投資と充実した株主還元を最適なバランスで実施



※: 期間最終年度末有利子負債 ÷ 期間最終年度EBITDA

## 2. 利益還元

### 持続的な利益還元の充実を目指す

#### 【配当方針】

株主の皆様への利益還元を充実させるべく、基本的な配当方針として**配当性向40%**を目標とする(前中計までは30%)

- 但し、M&Aを含めた成長投資にキャッシュフローを優先的に振り向ける方針
- また、配当性向40%としても、M&Aの実施により、のれんの償却が増加し、会計上の利益が圧縮されることで配当金総額の変動が予想される

還元額の総額は維持・向上するべく、キャッシュフローの状況を踏まえながら、機動的に株主還元を行う方針

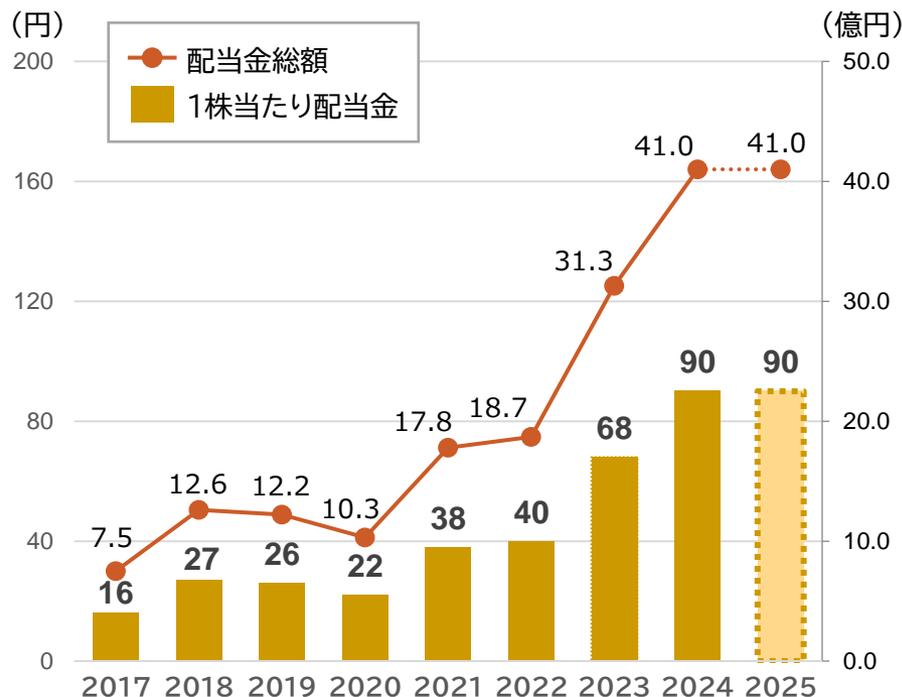
#### 【2024年度の配当金(1株当たり)】

中間45円 + 期末 45円 = 年間 90円

#### 【2025年度の配当金(1株当たり)予想】

中間45円 + 期末 45円 = 年間 90円

#### ■ 1株当たり配当金、配当金総額の推移



注:年間配当金は、株式分割(2023年10月1日効力発生。1株を5株に分割)を考慮した場合の金額

#### <参考情報>

自己株式の取得(2023年11月6日~2024年3月22日に実施)  
・取得株式:1,220,800株 ・取得価額:22.4億円

### 3. 財務状態と主な経営指標（成長投資実施後の予想）

#### 安定した財務基盤のもと、収益力の強化を推し進める

～ M&A・設備投資の実行により一時的に経営指標が低下するものの、財務の健全性は維持 ～

（単位：億円）

連結貸借対照表		2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想
<ul style="list-style-type: none"> <li>● M&amp;A・設備投資による資産の増加と資金調達による有利子負債の増加</li> <li>● 株主資本は利益の加算と配当金の支払いで増加</li> </ul>	資産合計	1,551	1,952	2,257
	有利子負債	280	619	816
	その他負債	400	394	440
	株主資本	754	815	858
	非支配株主持分(*)	35	48	69

(\*) 当社連結子会社の純資産のうち、当社以外の株主に帰属する部分

主な連結経営指標		2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2025年度予想はGouda社の買収、Reframax社の買収、及び先端機材セクターの設備投資実施後の予想BSに基づく</li> </ul>	営業利益	138	132	135
	ROS (売上高営業利益率)	9.6%	9.2%	7.8%
	EBITDA	176	179	225
	EBITDAマージン	12.3%	12.5%	12.9%
	ROIC	9.3%	7.2%	5.9%
	自己資本比率	53.8%	45.6%	41.3%
	D/Eレシオ(グロス)	0.37	0.76	0.88
	D/EBITDA倍率	0.38	1.96	2.58

#### ■6次中計目標値（単位：億円）

	中計最終年度 (2026年度)
営業利益	200
ROS	11.0%
EBITDA	250
EBITDAマージン	14.0%
ROIC	10.0%

## V. その先の未来に向けて

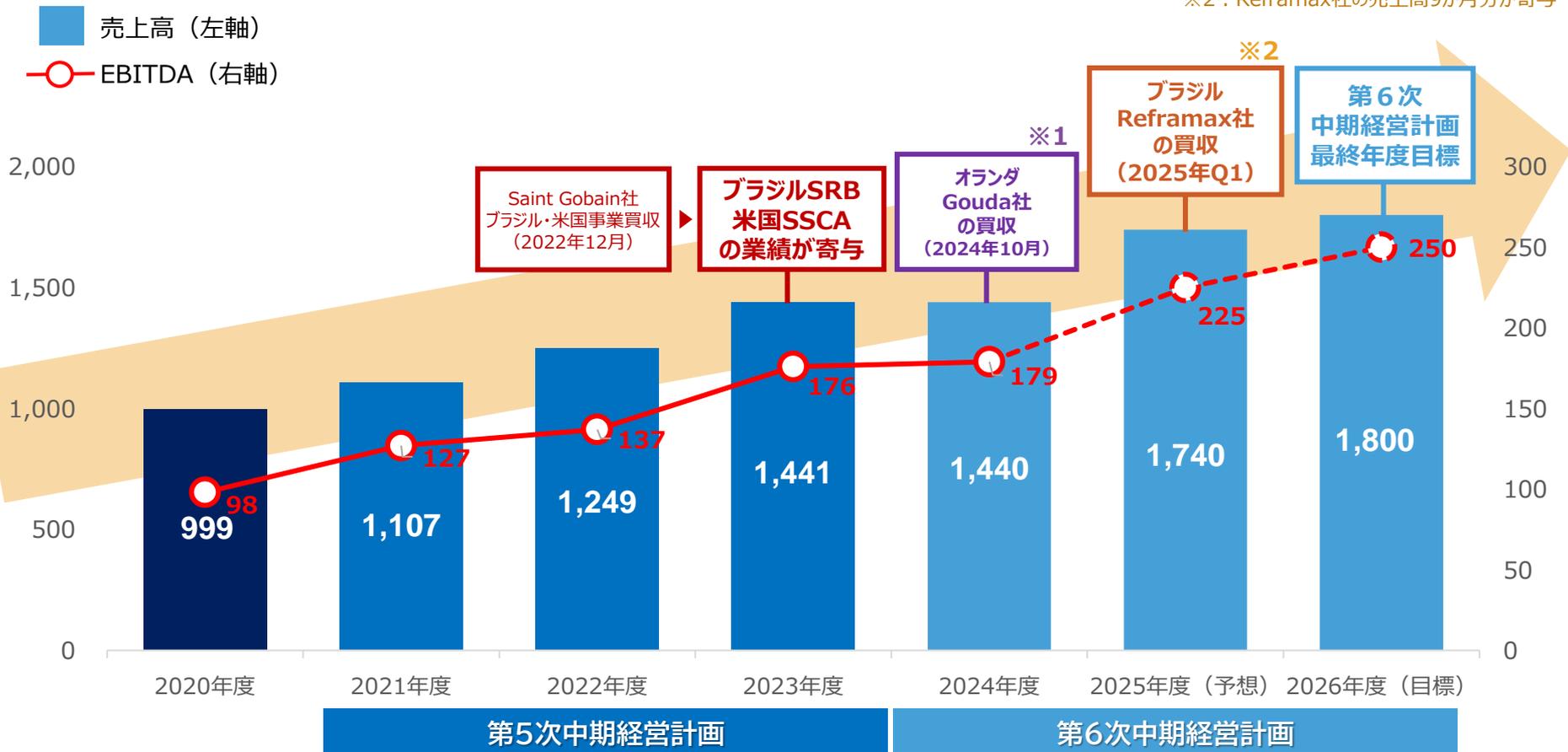
# 1. 第6次中計目標の達成に向けて

ブラジルSRB・米国SSCA、オランダGouda社に続き、  
ブラジルReframax社の買収により、第6次中期経営計画の達成が視野に

■品川リフラクトリーズグループの連結業績見込み（億円）

※1：Gouda社の売上高3か月分が寄与

※2：Reframax社の売上高9か月分が寄与



## 2. おわりに： さらにその先の未来へ向けて…

2025年10月、当社は「創業150周年」を迎える。

この大きな節目を契機に、**企業理念の再構築**と**社名変更**を行い、さらにその先の未来へ向けた経営戦略と人材・組織開発を推進。



### 企業理念を再構築

(2025年6月26日 公表予定)

↓  
組織能力に磨きをかけ、  
持続的な成長を可能とする  
指針の確立

PURPOSE

VISION

VALUE

### 「品川リフラ」に社名変更

(2025年10月1日 社名変更予定)

耐火物を意味する「リフラクトリーズ」から「リフラ」という造語に変更  
150年の歴史と伝統を引き継ぎつつ、耐火物以外の断熱材、先端機材、エンジニアリング事業にも注力していくことを表明

## VI.【ご参考】その他の戦略の進捗状況など

# 【ご参考】 Reframax社と当社グループのシナジー

相互のプラットフォームを活用した双方の人材・技術交流を通じ、  
グループ全体でのシナジーの最大化へ

 品川リフラクトリーズ株式会社

REFRAMAX

## 海外進出

Reframax社のアジア・欧州・北米  
への展開を積極的に支援



米州地域のプレゼンスをてこに  
当社グループでの施工体制強化に寄与

## 事業展開

高品質製品  
(耐火物・耐熱材・ファインセラミックス等)  
の提供



総合エンジニアリング企業としての  
技術力・ノウハウを当社グループへ提供

## ガバナンス

株式の60%を保有し取締役の過半を確保  
Reframax社の企業価値向上をサポート



現経営陣が続投し、現地の事業展開を推進  
エンジニアリング企業としての利益最大化追求

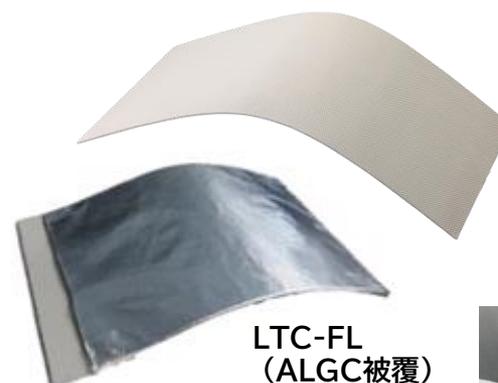
## 技術・人材交流

活発な技術交流を通じた施工技術の向上  
グループの工事対応力向上に寄与する人材交流の推進

## ▶ 断熱材セクター

### 超断熱ボードLTCシリーズにFLが新規ラインアップ ～多様な断熱製品を提供することで地球温暖化対策に貢献～

- マイクロポーラス系断熱材LTCシリーズは、超断熱性能を有し熱エネルギーのロス防止に極めて有効な製品
- LTCシリーズを使用することで、お客様の省エネルギーに貢献し、結果、CO2排出量削減に繋がる
- 鉄鋼・非鉄・工業炉分野のみならず、半導体製造処理炉やバッテリー関連部材として着実に使用用途が拡大
- 今回、フレキシビリティな特性を有する新商品LCT-FLを開発し、多様な用途への使用拡大を推進



		LTC-FL	LTC-A	LTC-ES	LTC-HT	
代表的な 品質特性	最高使用温度(°C)	900	900	1000	1400	
	かさ比重(kg/m <sup>3</sup> )	300	410	250	430	
	曲げ強さ(MPa)	0.3	1.1	0.3	0.6	
	熱伝導率	at 600°C	0.03	0.04	0.03	0.09
	(W/m・K)	at 800°C	0.04	0.05	0.04	0.10

## ▶ 先端機材セクター

### ファインセラミックス製品の生産基盤の再構築に向け 岡山県瀬戸内市に新工場建設を開始



- 2026年2月に稼働開始予定  
⇒ 既存工場(岡山県備前市)との2拠点体制により生産基盤を強化
- 新工場ではファインセラミックス製品の原料工程と後工程を担う計画
- 今後は半導体製造装置関連や航空宇宙・エネルギー関連などの新成長分野への事業拡大を推進



## ▶ エンジニアリングセクター

### 大型建設案件・カーボンニュートラル開発案件への積極的参画

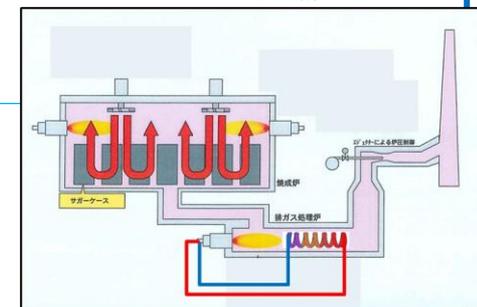
- スタンプチャージコークス炉新設
- お客様のカーボンニュートラル開発案件
  - ▶ カーボンリサイクル小型試験高炉建設、高品質鋼材製造小型試験電気炉建設

### 成長分野(カーボン焼成炉等工業炉分野)への人材投入と受注拡大

- 高性能で環境負荷を低減したカーボン焼成炉の開発・拡販の実施
  - ▶ “炉内温度・酸素濃度制御”をハイレベルで達成できる自動制御システム構築
  - ▶ “排ガスの低環境負荷化”の達成

排ガス処理技術の更なる進化により、環境負荷低減型・排ガス処理炉を受注  
長年培った工業炉運転技術を基に、カーボンニュートラルを意識した燃料の高効率化  
(燃料転換)を各所にて計画・導入中

▼カーボン焼成炉イメージ



### 新たな施工技術・点検技術の導入・開発による働き方改革と作業効率化の推進

- 次世代セメントレス吹付技術(SIG)の開発
  - ▶ 吹付材製品の開発が完了 ⇒ 現地施工テストにて耐用性確認中
  - ▶ 従来の吹付材製品と比較し、高い耐用性・施工性を有しているため環境分野、鉄鋼・非鉄分野など幅広い用途に適用拡大中
  - ▶ 従来のセメントレス吹付技術(SNG)では特殊装置と高い施工技能が必要 ⇒ SIGは施工が簡易・施工効率アップ
  - ▶ 海外市場への展開も視野に、更なる拡販を推進

- 小型ドローンを活用した点検・測定技術の開発
  - ▶ 各所にて小型ドローンによる点検・測定試験を展開し有効性(高所、狭所等での安全優位性・効率性・精度等)の検証後、導入拡大を検討
  - ▶ 加熱炉、付帯設備等では、既に小型ドローンによる点検実績あり。省人化・時短・高精度画像が入手できることなどにより、客先から高評価を得ている



# 【ご参考】生産基盤の整備状況

## 東西の国内拠点を再編・統合し、国内拡販とグローバルマーケットにおける成長への生産基盤を整備

### 西日本地区

3拠点の不定形耐火物を赤穂工場に集約

- 赤穂** → 2025年度から最新鋭プラントを中心とした生産体制を確立
- 日生** → 2025年度からモールドパウダー専門工場(2024年度新グレードライナー本格稼働)
- 帝窯** → 閉鎖

赤穂工場新プラントの設備状況

不定形耐火物の競争力強化のため、西日本地区の生産拠点を2025年度から2拠点到集約

- 赤穂工場の最新鋭プラントが2024年9月より営業運転開始  
⇒ 2025年度から西日本地区の不定形耐火物は赤穂・玉島2工場体制  
日生工場はモールドパウダー専門工場化
- 岡山工場はトンネルキルンの集約を視野に入れさらなる最適生産体制の再構築へ

### 東日本地区

湯本工場の不定形耐火物を他工場に集約完了

- 湯本** → 不定形耐火物生産工場
- 湯本** → 定形耐火物生産工場(PBを含む)機能性耐火物生産ラインの最新鋭化
- 鹿島** → 東日本地区の不定形耐火物生産拠点

東日本地区の生産拠点集約が完了  
さらなる生産基盤整備を検討

- 東日本地区では湯本工場で定形耐火物を、鹿島工場で不定形耐火物を生産する体制が確立
- 湯本工場の機能性耐火物生産ラインは海外ビジネスのマザー工場化も視野に入れ最新鋭化へ

● 定形耐火物 生産工場 ● 定形・不定形耐火物 生産工場 ● 不定形耐火物 生産工場

## 【ご参考】 サステナビリティへの取組み

# 定形耐火物の生産拠点・岡山工場への電力供給を行う 太陽光発電が稼働開始



【太陽光発電の航空写真】・・・発電容量:3,300KW

- 岡山県備前市の当社所有地に太陽光発電を設置  
⇒ 2025年4月より稼働開始
- 定形耐火物の生産拠点である岡山工場で使用される一部の電力を供給
- LNGなどCO<sub>2</sub>排出量削減となる燃料への転換と合わせ、省エネルギー化への取組みを促進



「当社 岡山工場」

## ご 注 意

---

本資料は、2024年3月期決算(2024年4月～2025年3月)の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は、2025年5月29日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。